

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
人の暮らしと看護	1	15時間(8回)	1年次・前期	大久 明子	
実践的教育内容	看護師として5年以上の業務に従事し(専門領域:訪問看護・地域包括に3年以上の業務従事も含む)専任教員として必要な研修を修了した者が、地域で生活する意味について具体的に教授する。				
学習目標	1. 地域で暮らす人々の環境を理解する 2. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する 3. 人の暮らしに関心を寄せ、看護として何ができるかを考えられる				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. 暮らすということ 1) 生活と暮らし 2) 生活や暮らしにとって重要な要素 3) 地域で暮らす人々	講義 GW	6回	5. 暮らしが健康に与える影響を考える 6. 「看護」として何ができるかを考える	講義 GW
2回	2. 支えあって生きるとは 1) 人との関わり 2) 支え合い	講義 DVD	7回	7. 発表準備	GW 講義
3回	3. 地域とは 1) 地域との関わり 2) 地域のつながり 3) 住みよい地域とは	講義 GW	8回	8. 発表会	試験
4回 5回	4. 地域を探索 1) 計画書作成 2) インタビュー 3) 地域活動の参加	GW 探索学習			
評価方法	レポート評価 100点	教科書		講師の資料による	

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
暮らしを支える看護Ⅰ	1	15時間(8回)	1年次・後期	前田 知美	
実践的教育内容	訪問看護ステーションで管理者として20年以上勤務経験のある看護師が、看護学生の実習指導経験も生かして訪問看護のステーションの具体的な仕組みから、在宅看護の概念・制度や社会資源などを含めた内容を教授する。				
学習目標	1. 在宅看護が必要とされている背景と在宅看護の概念について理解する 2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解する 3. 在宅看護に必要な法・制度・社会資源について理解する 4. 訪問看護制度が創設された経緯を理解し、訪問看護ステーションの仕組みを理解する				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. なぜ今、在宅看護が必要なのか？ 1) 人口構成と高齢者の健康 2) 家族構成に変化と介護 3) ニーズの多様化	講義	5回	5. 在宅での療養生活と入院生活の違い 1) 『QOLを支える看護』鑑賞 2) 個人ワーク・GW	講義 DVD GW
2回	2. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステム 2) 自助・互助・共助・公助 3) 多職種連携、協働	講義	6回 7回	7. 訪問看護ステーションとは 1) 訪問看護ステーションの設立 2) プレゼンテーション 終講試験	講義・GW 講義・GW
3回	4. 在宅看護の提供の場 3. 在宅看護の対象者の特徴 1) 地域看護と在宅看護の関連性 2) 対象者の特徴	講義	8回		試験
4回	3) 家族の特徴 4. 在宅看護の変遷と制度 1) 在宅看護がどのように発展してきたのか 2) 介護保険制度の仕組み 3) 社会資源の活用	講義			
評価方法	筆記試験 100点		教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)	

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
暮らしを支える看護Ⅱ	1	15時間（8回） ① 7時間（4回） ② 8時間（4回）	1年次・後期	① 大久 明子 ② 富田 昌秀	
実践的教育内容	地域・在宅看護論領域担当教員により、在宅看護における対象の権利や社会資源・地域で生活するうえでの安全管理について具体的に教授する。訪問看護ステーションの管理者として、10年以上経験のある看護師により、具体的な事例を用いて多職種連携の実際を教授する。				
学習目標	1. 在宅看護師に必要な職業倫理、対象の権利について理解する 2. ケアマネジメントの目的と機能と実際が理解する 3. 療養生活における安全管理を理解する 4. 在宅看護の多職種・他部門との連携や取り組みの実際を理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 (大久)	1. 在宅看護の倫理 1) 対象の権利保障 ① 自己決定 ② アドボカシー 2) 虐待・ネグレクト	講義 GW	4回 (富田)	1. 多職種・他部門との連携や取り組みについて	講義・GW
2回 (大久)	2. ケアマネジメントと社会資源の活用 1) ケアマネジメントの概念 2) ケアマネジメントの要素・機能・過程 3) 社会資源の活用	講義	5回 (富田) 6回 (富田) 7回 (富田) 8回 (大久)	2. 事例検討会について 3. 校外学習「事例検討会」	講義・GW 校外見学 校外見学
3回 (大久)	3. 在宅看護の安全管理 1) 生活上の安全確保 ① 医療事故防止 ② 感染防止 2) 災害時の在宅看護の役割	講義 DVD		終講試験	試験
評価方法	① 筆記試験 80点 ② レポート評価 20点	教科書		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）	

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
在宅療養を支える看護Ⅰ	1	30時間（15回）	2年次・前期	菊谷 八重	
実践的教育内容	診療所の訪問看護師として16年の勤務経験のある看護師が、在宅で健康障害の特徴に応じた生活援助の実際と医療技術の実際について具体的に教授する。				
学習目標	1. 在宅看護援助に必要な基本技術が理解できる 2. 在宅看護の対象に合わせた援助方法が理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. 在宅看護で求められる日常生活援助	講義	8回	2. 在宅における医療技術	講義・演習
2回	1) 食事・嚥下に関する援助	講義	9回	1) 褥瘡の予防とケア	講義・演習
3回	2) 排泄に関する援助	講義		2) 尿道留置カテーテル	
4回	3) 清潔に関する援助	講義		3) ストーマ	
5回	4) 活動・移動に関する援助	講義	10回	(人工肛門・人工膀胱)	講義・演習
6回	5) コミュニケーション技術	講義	11回	4) 経管栄養	講義・演習
7回	6) 認知機能の低下に関する援助	講義	12回	5) 在宅中心静脈栄養 (HPN)	講義・演習
	7) 呼吸機能に関する援助			6) 非侵襲的陽圧換気 (NPPV)	講義・演習
	8) 終末期の援助		13回	7) 在宅酸素療法 (HOT)	講義・演習
			14回	8) 人工呼吸療法 (HMV)	講義・試験
			15回	9) 疼痛緩和	
				終講試験	
評価方法	筆記試験 100点	教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30 時間 (15 回) ① 14 時間 (7 回) ② 16 時間 (8 回)	2 年次・後期	① 大坪 よし子 ② 中尾 伊都	
実践的教育内容	<p>診療所の訪問看護師として16年の勤務の中で、主に終末期（看取り）の看護の経験が多い看護師により、在宅看護の介入方法や地域で最期を迎える意味について教授する。</p> <p>訪問看護ステーションの所長をしている看護師が、健康障害の特徴に応じた看護技術の実際を国家試験対策も考慮し教授する。</p>				
学習目標	<p>1. 入院から在宅療養に至るまでに必要な看護の役割が理解できる</p> <p>2. 在宅療養の時期別、疾患や健康障害の特徴から必要な看護が理解できる</p>				
D P と の 関 連	<p>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p>■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p>■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p>□7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 (大坪)	1. 在宅看護介入の時期別特徴と必要な看護の理解 1) 在宅療養準備期 (退院前) 2) 在宅療養移行期 3) 在宅療養安定期 4) 急性憎悪期 5) 終末期 (看取り期) グリーフケア 6) 在宅療養終了期	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 (中尾)	2. 脳血管障害 (後遺症) もつ療養者への看護 3. パーキンソン病の療養者への看護 4. 認知機能の低下 (認知症) の療養者への看護 5. 難病に伴う健康障害をもつ療養者への看護 6. 呼吸障害の療養者への看護 7. 独居の療養者への看護 8. 終末期 (がん) の療養者への看護 9. 精神疾患の療養者への看護 終講試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・試験
評価方法	筆記試験 100点 ( ①50点 ②50点 )	教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		

【 専門分野 地域・在宅看護論 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
在宅療養を支える看護Ⅲ	1	30 時間 (15 回)	2 年次・後期	大久 明子	
実践的教育内容	地域・在宅看護論領域担当の教員が、領域のまとめしてペーパーペイシエントによる看護過程展開技術を教授する。 また、事例を通じて在宅看護に必要な態度行動について教授する。				
学習目標	1. 在宅看護が必要な対象を理解し、必要な看護過程が展開できる 2. 在宅看護に必要な態度・行動および専門職としての倫理観を習得できる				
D P と の 関 連	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</li> <li>■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</li> <li>□3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</li> <li>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</li> <li>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</li> <li>■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</li> <li>□7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</li> </ul>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 訪問に対する心構え 1) 挨拶・マナー 2) 態度・行動	講義 GW 演習	5 回 6 回 7 回 8 回	3. 事例を用いた看護過程の展開 事例 1 : ALS 事例 2 : 糖尿病 事例 3 : COPD 事例 4 : パーキンソン病 事例 5 : 終末期 (がん) (G で 1 事例を選択し進める)	GW GW GW GW GW GW
2 回 3 回 4 回	2. 在宅看護の看護過程 1) 在宅看護過程の特徴 ①情報収集 ②アセスメント ③計画立案 ④実施 ⑤評価 2) GW での学習共有 3) 学習発表	講義 ワーク GW	9 回 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回 15 回	発表準備 発表 発表 まとめ・終講試験	GW 発表 発表 講義・試験
評価方法	レポート評価 100 点	教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		